

討 論

※議会討論は、議案に対する賛否の意思を表明し、その理由を述べる場です。議員は他の議員に自身の意見への賛同を求めることが目的であり、討論が終結すると採決へと進みます。

反対討論

南雲 あや子

一般質問で指摘した問題では一定の前進が見られたことは評価するが、次の理由で反対。

①高齢者や要援護世帯などへの除排雪対策の進展がない。

②国策として導入した自治体情報システムの運用経費の増高分を、全て町が負担することは適当ではない。運用方法についても疑問がある。

③会計年度任用職員にも勤勉手当が令和7年度から支給される。支給率は期末・勤勉手当とも職員より低い。働く人は平等に、大切にすべし。

賛成討論

渡辺 千恵

予算増の原因として人件費の増、物価高騰、さらに新ごみ処理場に関わる南魚沼市への負担金増も大きく影響。今年度までの有利な起債による借入での土木費増加も予算増の要

因の一つ。財政状況がひっ迫する状況を今年度見直し、改善しても維持が難しいものは縮小、譲渡、売却を含め、また町民にも負担が増えることも理解していただくことを求め、財政運営がしいられている中、執行部で再度削り、可能な限りの予算編成であるから賛成する。

反対討論

並木 利彦

・マンション上下水道料金の徴収方法の変更において、試算比較表が高額収入減。

・今年度予算は、90億超えの93億2,900万円。

・DMO予算のプロジェクトDの予算は0円。冬季誘客プロモーション事業に仮に1,300万円付けば1億円を超えてくる。

・町の収入が足りず宿泊税を導入検討。高齢者介護福祉等、地域交通対応、部活地域移行など費用増。

賛成討論

南雲 好幸

厳しい財政運営の中で大きな予算編成になったが、物価高騰や人件費のアップは避けられず、また南魚沼市への負担金増加もごみ処理新施設建設であり、致し方ない。この状況での最低限の予算要求である。さらに執行部で削減が繰り返され予算が

できた。3日間の予算審議では具体的重大な問題点、変更要求の質疑はなかった。議会の責任として新年度の予算執行、事業実施を遅れさせてはならないため予算に賛成する。

反対討論

岸野 雅人

数年来の運営により、町財政は硬直度高いを増す。予算時の財政調整基金残高見込みは、令和6年度で6億円台、本年度は3億6千万円弱。（令和4年末残高は13億6千万円）また、ふるさと納税はしっかり充てにし、さらに借金もする。今年度まとめた「財政運営指針」はなんだったのか。賛成は緩やかな自殺行為に手を貸すようなもの。議員には億単位減額の修正案提出は困難。ならば、暫定予算編成を覚悟で反対するしかない。

賛成討論

飯田 正義

厳しい財政状況下、住民サービス維持と地域発展のため、財政調整基金の繰り入れや借入も当面は必要。執行部が温泉施設の利用料見直し等、削減努力や新たな財源確保に取り組んでいることは認識しているが、中長期的な財政運営には懸念がある。今回の予算には賛成するものの、将来世代に負担を先送りすることなく、

持続可能な地域社会を実現するため、中長期的なビジョンを明確にし、不断の検討を重ねていただくことを強く求める。

賛成討論

水谷 幸乃

近年の物価高騰や人件費増額を踏まえても予算内容は前年度比較で妥当であり、事業継続に不可欠なものと判断する。しかし、財政状況が厳しいことに変わりはない。各事業や公共施設の運営、利用料金の見直しが必要であり、執行部には行動を求める。苦慮した予算編成を評価し、賛成する。

賛成討論

高橋 政喜

町の予算は、年度に実施したい事務・事業にどれほどの経費をかけるか、それを賄うために財源をどう調達するか計画し、金額で表示したものの。予算は町の一年間の入と出の見積もりであり、住民に対し年度内にどれほどの公租公課を義務付ける、また、その見返りとして行政サービスをを行い福祉向上に努めるか約束する。町長は自分のための行政第一ではなく、町民第一の行政、また予算を願う。一言苦言を呈し賛成する。